

房総の文化財

— 第 2 号 —

平成 5 年 3 月 1 日

財団法人 千葉県文化財センター
千葉県四街道市鹿渡809-2
TEL 043-422-8811(代)
FAX 043-422-8850



▲山野貝塚で発掘された柄鏡形住居跡

発掘！柄鏡形住居跡

袖ヶ浦市飯富の「山野貝塚」で、縄文時代後期の「柄鏡形住居跡」が見つかりました。

当時の住まいは、地面を掘りくぼめた「竪穴住居」です。「柄鏡形住居」もこの一つで、上から見た形が柄のついた鏡に似ていることから、このようによばれています。柄の部分は出入口と考えられ、今日の玄関に相当します。この住居跡は、縄文時代のなかでも4000年前ころの一時期だけに多くつくられました。

写真の住居跡は比較的大型で、複数の炉の跡や床に埋め込んだ土器、無数の柱の跡が認められます。おそらく、いくどか建て替えが行われているのでしょう。

ところで山野貝塚では、貝殻などが捨てられた場所の外側に住まいが建てられたようで、この「柄鏡形住居跡」も例外ではありません。「どこに住まいをつくるか」ムラのきまりがあったのかもしれませんが。（上守秀明）

ますます興味がわいてきた!!

千葉東南部地区の遺跡調査発表会

昨年(2014年)の10月25日(日)に千葉東南部地区の遺跡調査発表会を開催しました。千葉東南部地区は現在「おゆみ野」という住宅街になっていますが、となりの「ちはら台」とともに当文化財センターが以前から発掘調査を実施してきたところです。



全体説明

今回の発表会は、千葉事務所と椎名崎古墳群の両会場で行いました。千葉事務所ではこれまでの発掘品を展示し、椎名崎古墳群では遺跡周辺にあったススキを使って平安時代のすまいを復元したり、古代住居跡の「体験発掘」やカマドを使った「古代料理づくり」などのユニークなコーナーもつくりました。参加人数は800人にも達し、工夫された展示や古代クイズにうれしそうな声をあげる子供たちと、泥だらけになりながらも熱心に土器をさ



体験発掘

がす親子の姿が印象的でした。

これまで展示重視の遺跡発表会が多かったなかで、今回の体験重視の試みは好評だったようです。とくに、当地区に住んでいる多くの小・中学生の参加があったことはうれしいことでした。参加された方々にとって、自分たちの祖先に直接ふれることができた初めての機会だったとおもいます。



復元住居

参加者の方々からは「毎日体験発掘したい」「土器をさがしてたときはとても感動的でした」「こういう企画があれば何回でも来たい」「平安時代のイメージが大きく変わりました。とても貧しかったのですね」などの声がありました。このような遺跡調査発表会は今後もいろいろな場所で開かれます。ぜひ楽しみに待っていてください。(加藤修司)



展示風景



笹子城跡の現地説明会

木更津市の東部笹子地区に所在する笹子城跡は、いまから500年ほど前の戦国時代初めごろに使われていた城です。この城には、真里谷武田氏という、市原から富津にかけての東京湾一帯を支配していた領主の一族がいたといわれています。

ところが、この笹子城跡の一部に高速道路が通ることになり、道路が建設されることを、当文化財センターで発掘することになりました。

発掘を始めてみると、予想を上回る貴重な成果が次から次へと見つかりました。とくに、幅12m、深さ6mもある大きな堀の跡や、高さ3cmほどのたいへん小さな水晶でつくられた五輪塔などが注目されています。

そこで、私たちは笹子城跡の発掘で見つかった貴重な成果をぜひ県民のみなさんに見学していただくため、昨年の8月29日(土)に現

地で説明会を開きました。

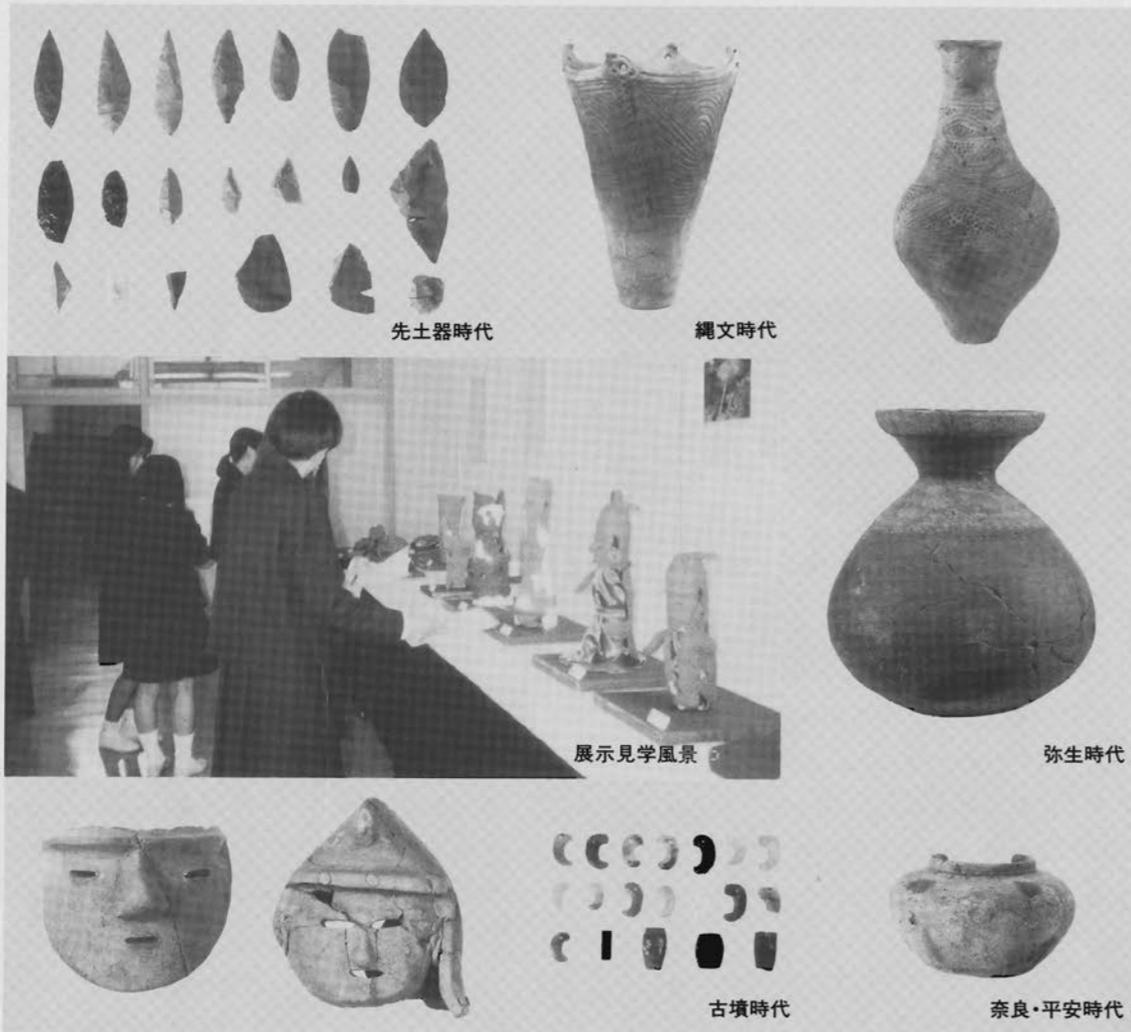
現地説明会の前日まで、現地への交通の便がかなり悪いことから、説明会への参加者は多くても150人から200人ではないかと予想していました。ところが、当日はうだるような暑さにもかかわらず、なんと500人近い方々が見え、現地は予想をはるかに超えたにぎわいとなりました。

とくに、見学する場所がせまかったこともあり、せっかく来てくださった方々にわかりやすく、ていねいな説明ができなかったことは残念でした。

縄文時代や弥生時代と比べずっと新しい戦国時代の城跡でも、歴史に興味をもつ方々にとってはロマンを感じさせるものだということを改めて思い知らされました。

また機会がありましたら、笹子城跡の発掘成果をお知らせいたします。(柴田龍司)

出土遺物公開展 — 最近出土の考古資料 —



当文化財センターでは、いままでに約2000か所にのぼる発掘調査を行い、原始古代の解明に多くの成果をあげています。

しかし、発見された貴重な遺物は博物館や本で見る以外、あまり一般の人たちの目にふれる機会がありません。そこで、今年度から県民のみなさんへ出土遺物を通じて、郷土の歴史をより深く理解していただくため、発掘された遺物の公開展を企画しました。

公開展は昨年(2019年)の11月22日(日)から12月6日(日)までの2週間にわたって、当文化財セ

ンター本部2階の展示室や会議室を会場にして、先土器(旧石器)時代から平安時代までの最近出土した遺物を中心に写真や文字パネルをまじえて、わかりやすく展示しました。

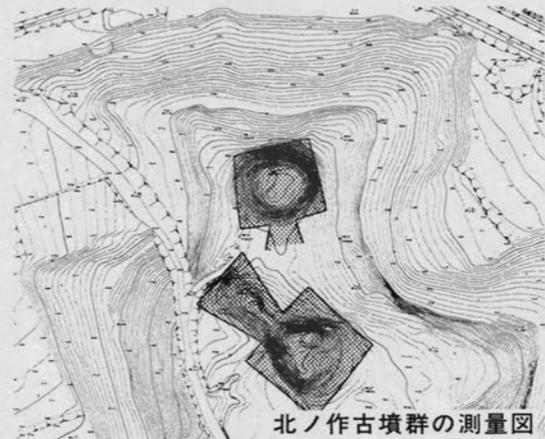
期間中の見学者数は1,000名以上に達し、「興味深く見ることができた」「来年以降も期待する」などの心強い感想をいただき盛況のうちに終了しました。今後、当文化財センターの普及活動の充実をはかる第一歩として十分な成果がえられたとおもいます。

(太田文雄)

発掘調査速報

菅生遺跡の弥生水田

木更津市菅生は弥生時代から田園地帯だったことがわかりました。現在の田の下に7層の田が埋まっていた。これは小櫃川のはらんによって運ばれてきた土が田を埋め、そこにまた田を復旧させる作業がくり返し行われ、さらに近代の耕地整理が行われた結果であり、一面一面の田んぼは人間の稲作へのこだわりを物語っています。写真は遺跡のいちばん北側で見つかった弥生時代の田の跡です。畦で区画された一枚の面積は現在よりもずっと小さなものです。(高梨俊夫)



奈良時代の須恵器窯跡

市原市永田(ながた)窯跡群で奈良時代の須恵器の窯跡が4基見つかりました。須恵器は、ロクロを使用してつくられ、密べい式の窯で焼かれたねずみ色の土器で、古墳時代の中ごろから焼かれています。今回は窯がいくつあるか確かめるための調査であり、この地域に30基前後の窯があることがわかりました。

窯からは、高杯・杯(ご飯茶碗のようなもの)・椀・皿・蓋・甕(貯蔵用)、首の長い壺や短い壺が見つかり、なかには金属の器の形をまねたものもありました。(小林信一)



古墳時代はじめの前方後方墳

手賀沼を見おろす台地にある沼南町北ノ作1・2号墳は以前に発掘調査されたことがあり、1700年ほど前につくられた県内でも数少ない古い時期の古墳群であることが知られています。今回の調査は古墳の形を明らかにする目的で行い、1号墳は一辺17m前後の方墳、2号墳は全長33mの前方後方墳(方形と長方形を組み合わせた形)とわかりました。1号墳には前方部の未発達な「突出部」があり、古い時期の古墳に多い前方後方墳の変遷を考えるうえで重要な資料です。(糸川道行)



埋蔵文化財アラカルト

シリーズ 住まいの移り変わり

第2回 縄文時代

縄文時代の住まいは、前回に取り上げた旧石器（先土器）時代とは違って、各地でたくさん見つかっています。

旧石器時代の住まいが痕跡も残らないような簡単なつくりのものであったのに対し、縄文時代の住まいはほとんどが竪穴住居です。竪穴住居は、地面を1mほど掘りくぼめて床とし、そこに柱を立てて屋根を葺いた住まいです。外から見ると、地面の上に直接屋根がかかっているように見えます。

掘りあがった住まいを上から見ると、四角い形のものより丸いものが多く、炉を中心に



して柱の位置に、ある程度の規則性がみられます。住まいの広さは、10~30㎡ほどのものが多く、5人家族が住めるぐらいの大きさです。炉は火をたいて、明かりや暖をとったり、土器の中に入れた貝などを料理したところです。炉が住まいの中に設けられるようになったのは縄文時代前期ころからで、早期では屋外に掘られた炉穴（ファイアーピット）が調理場などに使われていました。（安井健一）

前回のまちがいさがしの解答



左上にある建物がまちがいでした。旧石器時代には、高床の建物はまだ存在していなかったようです。右側のテントのような建物が、旧石器時代の住まいと考えられているものです。旧石器時代の生活のようすは、まだまだわからないことばかりです。みなさんも謎解きにチャレンジしてみませんか。（新田浩三）

Q & A

1. 貝塚って何ですか？

縄文時代のゴミ捨て場のことで、地面は貝殻で、一面に雪が降ったように真っ白になっています。なかには、直径100m以上のドーナツ型をした幅10m・厚さ2mにおよぶ貝層をもつ大きな貝塚もあります。食用だけの目的で採集したとしては、貝の量があまりに多すぎるので、干し貝をつくり、海から遠い山間部の人々との交易に使ったのかもしれませんが。

2. 貝塚からは貝のほかにどんなものが見つかりますか？

魚や獣の骨がでできます。めずらしいものとしては、ウミガメやアシカの骨も見つかることもあります。骨はふつう腐ってしましますが、貝塚では、貝の石灰分の性質によって残っています。人骨が埋葬されている例もありますので、貝塚はたんなるゴミ捨て場ではなかったかもしれません。もちろん、土器や石器も多く見つかります。

3. 千葉県で有名な貝塚はどこにありますか？

いままでに約550か所の貝塚が見つかっています。日本全体には約3,000か所といわれていますから、千葉県には全国の約1/5の貝塚が集中していることとなります。京葉道路の上にある有名な貝塚トンネルは、荒屋敷貝塚を保存するためにつくられました。千葉市加曾利貝塚や市川市堀之内貝塚には博物館があり、貝塚のようすや縄文時代のくらしについて、わかりやすい展示がされていますので、みなさんも一度訪ねてみるとよいでしょう。

4. どうして遺跡だとわかるのですか？

畑などを歩いていると、土器のかけらや石器が落ちていることに気づくことがあります。これは地下に埋まっていた遺物が、耕作で掘り起こされて地表に出てきたためです。土器などが集中してみられるようなところでは、その下に住居跡があるかもしれません。

また、地上に高く土を盛り上げた古墳のように、直接目で見ることのできる遺跡もあります。水田跡などの遺跡を除けば、多くの遺跡は台地の上に存在しています。（土屋治雄）

「シリーズ」住まいの移り変わりはいかがでしたでしょうか。縄文時代の家についておわかりいただけただけでしょうか？ 表紙にご紹介した山野貝塚で見つかった柄鏡形の竪穴住居跡の写真をみると、そこに住んでいた人々がどんなくらしをしていたのか、ますます興味をもたれたこととおもいます。そこで、今回は次のような特集をくんでみました。

特集 縄文人のくらし

私たちの主食であるお米が日本に伝わってきたのはいまから約2000年前の弥生時代のことで、さらに昔の縄文時代には、田畑を耕すことをほとんど知らなかったようです。

まず縄文人は、野や山でドングリやクリやクルミなどの木ノ実を拾ってきました。これを石のすりばち（石皿）と磨石を使って粉にして水で練り、クッキーやパンのように焼いて食べていました。穴を掘ってドングリをたくわえたりもしたようです。

貝塚は、縄文人が食べた貝の殻を捨てたところです。貝殻があまりに多いのは、干し貝などをつかって物々交換に用いたからかもしれません。貝殻のほかに、魚の骨やウロコなども出てきます。動物の骨やシカの角でつくった釣り針や、網のおもりに使った土器のかけら（土器片錘）が見つかることもあります。

貝塚からは動物の骨もたくさん出てきます。

シカやイノシシが多いようで、骨の髄まで食べるため打ち割られてバラバラになっています。狩りのときに使った石の矢じり（石鏃）や石の槍先なども出てきます。下の写真は香取郡小見川町白井大宮台貝塚で見つかった縄文時代のお墓ですが、犬の骨が人間とおなじようにていねいに埋葬されていました。縄文人が犬を大切に飼っていたことがよくわかっておもいます。猟犬として狩りに連れていったのかもしれませんが。（四柳 隆）



発掘調査をささえるみなさん



調査補助員さんたちとの一問一答

いままでで一番うれしかったことは？

季節を肌で感じられること。
こわれていない土器を取り上げたこと。
初めて見るものが出てきたこと。
いろいろな人たちと出会えたこと。
給料日。

いままでで一番つらかったことは？

雨が降ったときや、暑い夏の作業。
発掘方法について、何回聞いてもよくわからなかったこと。

お昼休みは何をしていますか？

みんなで雑談しています。
現場近くの野山を散策しています。
調査の方法などを教わるようにしています。
みんなで運動しています。
ずっと食べています。

発掘をするようになって変わったことは？

体力がついて健康になったこと。
歴史にあらためて関心をもったこと。
友だちが増えたこと。
へそくりが増えたこと。

お知らせ

当文化財センターでは、発掘調査をお手伝いいただく調査補助員を募集しています。ご希望の方は最寄りの現地事務所にお問い合わせください。

また、広報紙や見学などに関するご質問、ご意見をお待ちしています。

編集後記

だんだん暖かくなって、発掘調査にも最適な季節がやってきます。一つ、困るのが花粉症ですが、これも季節を肌で感じることでできる一コマでしょう。まもなく新年度、次号はさらにわかりやすく、充実した内容でお届けできればとおもっています。(岡田光広)